



大豆のは種について

近年、一部のほ場で紫斑病の発生が確認されています。

紫斑病（大豆の種皮に紫色のシミ）は、種子感染または空気感染で広がります。発生すると、製品の等級を下げる原因となります。種子消毒に加え、茎葉散布により病気の感染を防ぐことができますので、発生が確認されているほ場では必ず防除を行いましょ。茎葉散布の薬剤については、後日農時電送で連絡します。

☆は種の目安

は種時期は5月中旬以降（地温10℃以上、出芽期に降霜の心配がない時期）を基本とし、5月中には種作業を終わらせましょ。

品 種	は種時期	株間と10aあたり株数のめやす	は種深度
いわいくろ	～5/25頃	18cm (8,418株)	覆土は 3cm程度
トヨムスメ	5/25～30	18cm (8,418株)	
ゆめのつる		21cm (7,215株)	

※10aあたり株数：うね幅66cmで計算。

施肥例：S 3 2 5 または B B S 3 4 3 50～70kg/10a

※地力により調整する。また、窒素過多は根粒菌の着生を悪くするので避ける。
： D d S 8 0 0 60～75kg/10a

※地力が低いほ場や、開花期以降の生育が悪い場合は窒素追肥の効果が高いのですが、作業上追肥が困難な場合は肥効調節型肥料の使用を検討ましょ。

☆は種前・は種時に使用する農薬

対象病害虫	薬 剤 名	施用方法	施 用 量	回数
苗立枯病、紫斑病、タネバエ、ハト	キヒゲンR-2フロアブル	塗沫処理	乾燥種子1kgあたり 原液20mL	1回
タネバエ、苗立枯病（リゾクトニア菌）、斑点細菌病	または 粉衣用ペアーカスミンD	種子粉衣	乾燥種子重量の 0.3%	1回
タネバエ、アブラムシ類 ネキリムシ類	クルーザーFS30	塗沫処理	乾燥種子1kgあたり 原液6mL	1回
リゾクトニア根腐病、苗立枯病（ピシウム菌）、紫斑病、茎疫病、タネバエ、アブラムシ類、ネキリムシ類、ハト	クルーザーMAXX	塗沫処理	乾燥種子1kgあたり 原液8mL	1回

※クルーザーと種子粉衣剤を併用する場合は、クルーザー→粉衣剤→根粒菌の順で処理すること。

※タネバエの多発が懸念される場合は、ダイアジノン粒剤5を播溝施用ましょ。

☆除草剤散布

豆類の除草剤は、使用時期が細かく決められています。

右の図を参考に、各薬剤の使用基準を守って散布ましょ。 2010年5月号より

●●農薬の適正使用・飛散防止に努めましょ●●

